

## 2023年度 事業報告書

特定非営利活動法人ふるすあるは

### 1 事業の成果

定款上の事業名

#### (1)情報サイトの運営事業

「子ども情報ステーションー精神障がいをかかえた親とその子どもの応援サイトー」を運営し、1年間に、48万人のアクティブユーザー(サイトを利用しているユーザー)、97万人の新規ユーザーからのサイト訪問があった。212万のページ閲覧があった。

#### (2)心理教育絵本、テキスト等による普及啓発事業

『生きる冒険地図』『ゆるっとこそだて応援ブック』を広げる取り組みを行い、絵本サポーターを通して、新たに180冊を普及した。これまでの累計の寄贈数が約2500冊になった。啓発チラシ「親が精神疾患になったときの子どもと親のケアガイド」を、約6,000枚発行し、イベントでの設置や、活動に賛同するキッズパワーサポーターの協力による配布を行った。キッズパワーサポーター登録者とメルマガ会員、約2,500名へ毎月の配信で情報を拡散した。

新作コンテンツでは、新刊絵本『ここにケガをしたらトラウマってなんだろう?』(ゆまに書房、原案・解説:犬塚峰子氏)を刊行した。2022年8月に刊行したコミュニケーションを助けるアイテム『こことからだコンディションカード』は、カードを一覧シートにした商品とともに、教育機関や児童福祉機関はじめ、子どもに関わる機関や保護者などへひろがった。

イベントでの出展、オンラインストアでの販売などを通して、家族のこころの病気を子どもに伝える絵本・子どもの気持ちを知る絵本、気持ちに関するアイテム等をおよそ1700冊/個を普及した。

#### (3)セミナー等による課題の認知拡大、社会への普及啓発事業

さいたま市で開催した子どもの気持ちを表現した絵と活動の展覧会(さいたま市高次脳機能障害者支援センターと共催)は毎年恒例の企画となり、今期は約2,600名が来場した。福島県耶麻郡猪苗代町のはじまりの美術館で行われた展覧会では、およそ2,100人が来場し、これまで法人とのつながりがなかった人にもメッセージを届けることができた。14回のセミナー講師、シンポジウム登壇、情報提供機会等を担当し、精神障がいの親と子どもの支援ならびに、精神保健に関する普及啓発活動を行った。第2回小林登「子ども学」賞を受賞し、絵本や活動を広げることができた。

#### (4)目的を同じくする他団体等との情報交換や他団体と連携した協働事業

精神障がいを抱える親と子どもの支援に取り組む全国の関連団体に関する情報、関連書籍等の情報を随時更新し、運営する情報サイト内で提示した。病気や障がいをかかえながら子育てしている親、その子どもが、使えるかもしれない制度、人や場所について、「権利」という視点からまとめたシートを対象別に作成、公開し普及活動を行った。

### 2 事業の実施に関する事項(2023年10月1日 ~ 2024年9月30日)

## (1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数		支出額(千円)
情報サイトの運営事業	情報サイトの運営	通年	事務所、オンライン	5名	精神障がい の親とその 子ども、支援 者	約70万人	1246千円
心理教育絵本、テキスト等による普及啓発事業	チラシ配布による啓発	通年	事務所	3名	同上	約6000人	7945千円
	イベント出展・オンラインでの絵本販売	通年	滋賀、東京、埼玉	10名	同上	約500人	
	絵本献本	通年	沖縄、高知、千葉、石川他、全国	8名	同上	約180人	
	精神保健啓発ツール制作	通年	埼玉	3名	同上	約13,000人	
	展覧会	10月	福島	3名	鑑賞者	約2,000人	
セミナー等による課題の認知拡大、社会への普及啓発事業	セミナー講師	通年	兵庫、東京、埼玉、オンライン等	3名	セミナー参加者	約2200人	852千円
	啓発イベント	8月	埼玉	10名	イベント鑑賞者	約2600人	
他団体と連携した協働事業	情報発信	通年、3月	事務所、東京	3名	精神障がい の親とその 子ども、支援 者	約500人	16千円